













































個別施策	③	総合的な公害対策	主管課	環境保全課										
評価及び理由	評価	評価理由												
	○	五条川待合橋地点のBOD値について、平成15年度以降徐々に改善傾向が見られていたが、平成24年度についてはやや高い数値となっている。 ※BOD:生物化学的酸素要求量。水中の有機汚濁物質を分解するために微生物が必要とする酸素の量。値が大きければ水質汚濁は著しい。												
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値					
				年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)					
	五条川待合橋地点のBOD値		mg/l	H21	2.5	1.8	3.6	—	2.5					
	道路騒音・振動測定		—	H22	基準値内	基準値内	基準値内	—	基準値内					
航空機騒音測定		—	H22	基準値内	基準値内	基準値内	—	基準値内						
事務事業	事務事業名		事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化			
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	その他	事業費			人件費	計	
	1	水質調査・流量調査委託料		—	○	—	—	○	—	371千円	46千円	417千円	維持	—
	2	自動車騒音・振動測定業務		—	—	—	—	○	—	704千円	248千円	952千円	維持	—
3	航空機騒音測定業務		—	—	—	—	—	○	0千円	46千円	46千円	維持	—	





















単位施策評価シート（平成24年度実施施策）

1 単位施策の情報

【評価日】 H25 年 4 月 16 日

章	2	自然と調和した安全でうおいのあるまち	節	4	防災・防犯
基本施策	2	消防・救急	単位施策	(2)	救急体制の充実
主管課	消防本部		関連課	—	
				総合計画書 ページ番号	121
現状と課題	<p>・市内に総合病院がなく大半を市外の病院に搬送することとなり、救急隊の責任下で傷病者を管理する時間が長くなるため、救急隊員の更なる資質向上が求められる。</p> <p>・バイスタンダーCPR(緊急時に要救護者に対し市民が救急隊到着前に心肺蘇生措置を行う行為)の実施率が昨年より低下している。バイスタンダーCPRは救命率向上に関与するため実施の強化を図ることが必要である。</p> <p>・救急件数は昨年より減少したが、不適切な利用も見受けられることから、引続き救急車の適正利用を啓発していく必要がある。</p> <p>・尾張西北部地区消防合同訓練では多数傷病者を想定したトリアージ訓練を行い、他市との活動連携を強化した。今後も多種多様な現場に対応できるよう訓練を重ねる必要がある。</p>				

2 単位施策の評価と今後の取組

評価及び理由	評価	評価理由
	○	普通救命講習会参加のPR活動を積極的に行い、受講者が増加した。挿管や薬剤救命士の養成を行い、救急隊員の資質向上に努めた。
今後の取組	<p>・資格取得はもとより、救急医療の知識向上のため、学会等へ積極的に参加をするとともに署内訓練や勉強会により、救急隊員の資質向上に努める。</p> <p>・今後も、普通救命講習参加へのPR活動をイベント等を通じて積極的に行う。</p> <p>・長年の課題でもあるが、引続き救急車の適正利用について啓発活動を行う。</p>	

3 単位施策の成果指標(総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載)

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	応急手当講習参加者数	人	H21	1,198	1,578	1,521	—	1,440
	普通救命講習参加者数	人	H21	214	129	371	—	240

4 各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	救急サービスの高度化	主管課	消防本部				
評価及び理由	評価	評価理由						
	○	救急搬送情報システムの活用により医療機関の受入れ体制は整備されているが、大半の出勤が市外搬送に依存している。市内の医療機関を含め、適切な医療機関への搬送を心がけ、傷病者の安全を守りつつ、時間短縮を図る必要がある。適正利用のための啓発は、大型店舗等での応急手当普及活動と併せて実施することにより継続していく。						
指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
			覚知から医療機関に到着した時間	分	H21	27	28	28
	救急車の適正利用啓発の広報掲載	回	H21	3	3	4	—	3

事業	事務事業名	事業種類						投入コスト			今後の方向性	重点化
		新規	主要	マニフェスト	実計	予算	その他	事業費	人件費	計		
1	救急搬送情報システム	—	—	—	—	○	—	84千円	0千円	84千円	維持	—
2	救急車の適正利用啓発事業	—	—	—	—	—	○	0千円	29千円	29千円	維持	—
3												

個別施策	②	専門的人材の養成	主管課	消防本部				
評価及び理由	評価	評価理由						
	○	平成24年度に挿管救急救命士(1名)、薬剤救急救命士(1名)を養成した。来年度、救急救命士(1名)、挿管救急救命士(1名)、薬剤救急救命士(1名)を養成する予定である。病院搬送の間、質の高い管理を継続していく上でも、救命士の育成は必須である。多種多様な事故での処置を行うことから、外傷講習等の資格取得の必要もある。						
指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
			外傷講習資格取得者人数	人	H22	2	2	2
	救急救命士の人数	人	H22	7	8	9	—	9

事業	事務事業名	事業種類						投入コスト			今後の方向性	重点化
		新規	主要	マニフェスト	実計	予算	その他	事業費	人件費	計		
1	挿管・薬剤救命士の養成	—	—	—	—	○	—	610千円	61千円	671千円	維持	—
2	外傷講習受講	○	—	—	—	—	—	0千円	0千円	0千円	拡大	—
3	全国救急隊シンポジウムへの参加	—	—	—	—	○	—	100千円	62千円	162千円	維持	—













